



かじき

広報

第151号（特集）

44.4.8発行

発行所 加治木町役場
発行者 曾木隆輝
担当者 向江巧
編集者 中元邦夫
印刷所 吉屋印刷

全ご家庭に、もれなく配布



かわいい終了式

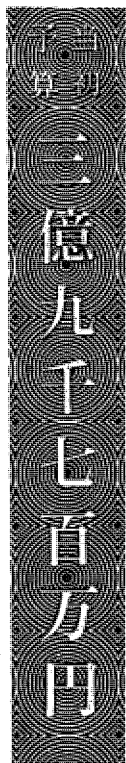
麦は穂を出し、カエルが鳴きはじめるころになりました。4月はお天気も全般的に花曇りの日が多く、空気が乾そうし、ときどき強い風が吹くようです。

各学校も卒業式や終了式をすませ、新入生を迎えようとしています。町内にある3つの保育所（加治木・小山田・川野）でも、このほど終了式を行ない全部で180人の園児が1年間の保育課程を終えました。園児たちは所長さんか

ら、ひとりずつ保育証書を渡されペコリと、かわいいおじぎをしていました。このうち84人が1年生として各小学校へ入学するということです。証書をもって、みんなニコニコ顔。

県下いつせいに、あらゆる機関、団体の協力のもとに「こどもを交通事故から守る運動」が4月1日から30日まで行なわれています。この運動が十分徹底されるよう町民の皆さんのご協力をお願いします。小山田保育所の終了式

44年度一般会計



住民福祉の増進 社会開発の促進 教育の徹底

(町長施政方針)

最近の社会経済の発展に伴い地方の行財政は重大な転換期に到達したといわれています。戦後の十年間は新しい制度をつぎつぎに取り入れ、これをいかに地におろすかの仕事でありました。

昭和三十年から昭和三十五年ごろにかけては、地方財政は全く危うい(殆)にひんして来て、これが再建時代だったと思います。それから地域開発のため諸計画を具体化する努力が払われたが、三十九年ごろには景気が下降し、大企業も停頓(頓)の形となりました。企業は都市および、その周辺に集まり、地方は次第に人口流出を見るに至った訳です。

経済の高度成長は都会の中で言うべくして、地方は過疎現象をどうするかに苦心せざるを得なくなりました。お互いに、いなかの町村は何とかして、この状況から脱却し社会資本のおくれを取りもど

すことに、あくせくしてきた訳です。

政府においても国土全体を通じて均衡ある発展を考慮し、自治体が自ら新しく地域産業を興して財政、経済の面からそのおくれをばん回し、地域住民の福利を増進するため「豊かな町づくり」のための運動を展開し、長期展望に立脚して計画的に、しかも広域行政を推進する事の必要性を明示しながら、これに呼応する諸事業をすすめて具体化して行かねばならぬ時機に入ってきた訳です。

新時代への転換、飛躍の年

本町としても、ここ数年來、農業構造改善事業をおこし、農業者も近代化をうながし、土木事業を推進してその基盤をつくりあげ、これは教育文化、さては社会福祉と住民の皆さんの理解と協力を

得ながら、皆様とともに町民のため町の発展のためにと努力して参りました。

一方では工場誘致に奔走しながら人口の確保、職場の開拓、税源の増強を図って参り、過疎対策が強く各方面で呼ばれる今日ですが心配しながらも、本町の死活に今すぐかかるような苦痛を感ぜずにおられるのではないかと思います。少なくとも西部始良郡だけでもひとまとめにした行政化への方向をもつて、新時代への移行の下地は、できつつあると申し上げて差し支えあるまいと確信します。

このような動きの中に方向が定まるだけの基盤を作ることに堂々と、ご努力なさいまして、ご協力くださいました皆様方、町民の各位に昭和四十三年度を送るに当たり、深く感謝の意を表したいと思っております。

国の予算は間もなく成立いたし

ますが、編成方針を見ますと、経済の持続的成長、物価安定、国民負担の軽減、総合予算主義など、いろいろな原則に立つて、一般会計は昨年に比して一五・八パーセント増の六兆七千三百九十五億円としております。

その中で、地方財政も国と同一基調によって重点主義をとって節度ある運営をなすよう要請してまいります。

県も同様、昨年度当初予算の一六・八パーセント内外の増加を見て、八百二十八億、目下審議中ですが、先般県の二十年後のビジョンが決まったり、あるいは知事の説明等を聞き、交通基盤整備や産業、とくに農業の振興、教育、過疎対策等を考慮を払っています。とくに本町に関する点は、空港や縦貫道あるいは加治木港などの問題があります。

さらに国道十号線のバイパス、インターチェンジから空港までの道路、日豊線の電化複線化などの問題があとから、あとから起こってきますが、本町は本年を期して新しい息吹(いぶき)をもつて大きく転換、飛躍する第一歩の年でもあります。

かかる年であることを念頭において、私はやはり目前の利害や感情にとらわれることなく将来を見おとして、町政を運営していくことが最も大事であります。

町自体の姿勢を正し、町民の大多数の念願と、わたくしどもの計画を一つでも多く具体化するため

効率的財政運営をなしつつ、物ごとを積極的に配慮して執行していく覚悟であります。問題は、できるだけ負担を軽減することを忘れず、その収入をふやすこと、その生活を向上せしめることを常に考えて行かねばならないと思えます。それが住民の福祉につながり、また町の発展に寄与することであると考えます。

かかる見地にたつて、当初予算を編成しました。新年度一般会計予算は三億九千七百万円に達し、昨年度のそれより五千九百万円増であり、一七・五パーセント増という形になつております。

新年度の施政方針

新年度の施政方針を具体的にまとめるには、大まかに次の三つに集約しました。

社会開発の促進

住民福祉の増進

教育の徹底

この意味の内容は次のとおりです。

◇社会開発◇

社会開発には先ず、環境整備、交通網の整備であります。もち



定例第1回町議会

その後で港湾地域に入るところは、やってももらいたいという考え方でお願いしている。

○ 加治木港は県の計画どおり総経費二億四、五千万円で、四十三年度から五年計画でやってもらう。計画として、今の舌出しを中心に東西岸壁二百三十五メートル、南北の百六十五メートル埋め立ててなるべく早く着工してもらうように漁協その他折衝をしながらお願いするといふ努力を払いたい。

○ 県道のうち、小山田地区や港線の改良を早急に完了してもらおうよう協力するほか、インターチェンジ、高速道との関連があるので町道の新開設や改良計画は国、県と緊密な連絡をとりながら計画を進めていきたい。

○ 農道に関しては従前どおり指導し、地元の協力を得ながら整備していく。

○ 公営住宅については、二十四戸程度を考えて、敷地は開発公社で配慮していく。

○ 西別府、小山田間の横断道路は、本年度中に測量調査を十分にして、その原案をもって県や国に当たっていく。なるべく早い時期に具体化していくよう努力する。来年に備えるつもりである。

○ 農業関係、これは商工業も同時に近代化への転換を要請されるので双方とも、県の力を借り診断してもらい、行政機関はもろろん商工業者あるいは、農

家に対策を立て、指導をし発展を期していく。夏祭り等の行事は過去二年の例にならって推進してもらおう。

○ 林業は、森林組合と力を合わせて造林その他を進めて行きたい。嶽から溝辺町にかけての林道問題が出ているが、これは営林署にご配慮をお願いする。そして早急な具体化をお願いする方針で考える。

◆住民福祉◆

○ 福祉センターの建設は昭和四十三年度から継続事業として今年中に完成するが、建築の内容等については財源が国民年金の還元融資を受けているため、いろいろと制約と条件がある。そのとおり造るといふことにしてただ、教育委員会、公民館関係も同居することになり、正式に部屋割り追って考える。地下一階、地上二階という計画にして、これを最重点的に考えていく。

○ 本年度の一般財源の大部分を投入する形になるが、老人や子どもをいたわり、婦人、青少年等あるいは民政社会福祉と、公民館活動の本拠としたい。

○ 町の直接の事業ではないが、特別老人ホームも高井田に造るよう、鹿兒島の有力な医師が希望しており折角、運動中である町として金銭的には援助できないが側面的に、できる限りの協

力をして、ほとんど本年は見込みはないとして本年中あるいは万一、遅れても来年には建設できるような可能がでてきたようである。これが完成すると本町だけでなく、あちこちのご老人のため大変しあわせと思えますできるだけ努力していこうと考えている。

○ 町民の栄養改善 とくに農村地方のかたがたの栄養の改善のために指導する組織を昨年から作り大要よろこばれているのでこれを強化していきたい。

○ 塵芥(じんかい)処理場の問題と火葬場の問題については、環境衛生上、一段と力を注がねばならないと思えますので、四十四年、四十五年度にかけて郡西部各町共同で具体化する方針である。予算は補正でお願いする。じんかいの運搬車は本年、今の車のかわりに新しいものを購入したい。

○ 墓地公園は、さらに本年道路を作って事業をすすめていく。

○ 老人と身障者のかたがたに入浴券の補助を昨年の下半期にやりましたが、大変よろこばれ、これも今年中止することなくご利用願う。

○ 妊産婦や関係の方、特に農村地帯を中心に保健婦をもつとフルに活動させて健康管理に万全を期したい。また精薄児の問題も最近、各学校で取り上げてもらっているが、これに對してもさらに、ひとつ何らかの手

ろん町土木費と失対事業により、主要町道を改良、改修します。次に県や国の事業を十分、受入れようにすること。

○ 国の事業としては海岸保全事業をやっていますが、今年には新興地区にあつては別府川の下流左岸の表面と内のを五百メー

トルぐらい完全舗装してもらいたい。黒川から網掛川堤防については港湾関係の事業もあるの

で、まず二百メートル幅を舌出しを中心に残しておいて網掛川下流の左岸、あるいは黒川地区の外面の強化を本年から、かか

を尽くそうではないか、と思うわけです。

◇文化教育と青少年育成

○ 今日、関係機関、PTA、教職員の方々の努力で、本町の教育のレベルは確かに他に比して遜(そん)色はないところまで、こぎつけられたと思うわけです。しかし、さらに一層の前進を必要としますが、教育の問題がやかましい今日でもあるので、十分気をつけていかねばならないと思う。また本町が住みよい町となる一つの大きな要素でもあることを考えて、財政は苦しいとはいえ、竜門小中の屋体をはじめ教育環境の整備、教材備品の充実、あるいは教職員の研修などを可能な限り配慮する方針をすることとした。

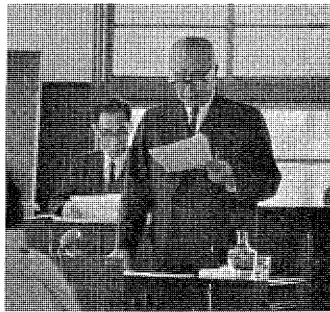
社会教育や社会体育も一段と推進したい方針で臨みたい。

○ 新たに本年からは自治会制度について、いろいろ改良を加えたいとしております。自治会そのものについては部落の自治活動として自主的にやってもらうことは従前どおり変わりはないが、この際に一定の補助をしてこの地区は教育委員会の方に移す。地区世話人と今まで申しておりますでしたが、つまり公民館活動の協力者であります。公民館活動の協力者がたに従前どおり主として公民館活動を中心に、いろいろな町の行政にも協

力していただきたい。

なお、一方自治会と末端行政について町は、その事務を契約委託するという方針をとって、この委託をされたひとりについては、町は事務連絡員として手当を支給する。そしてもっとすっきりした形で部落の振興、あるいは町の末端行政の円満な運営を図って行って町民、住民のかたがたの活発なご活動をお願いしたいという方針を取っていくことにしました。

所信を発表する町長



○ 団体の会場は、本町は何らなくなくなったので若い町民のかたがたに大変な失望が見受けられるようである。従って、せめて一般に体育を奨励して、可能なる選手候補になるような方を発見養成したいということで、町自体でその費用を見ることにした。学校の内外を問わず学校教育を推進しながら平和な明るい文化の町をつくっていききたいと、こ

ういう方針で臨みたい。

○ 青少年の非行化問題ですが、心身ともに健康な子どもを育てあげるためには、我々おとなの環境を十分整備していく必要があります、あるのではないかと思っています。この意味において公民館活動をさらに充実強化して、福祉センターも出来あがると、十分利用してもらい、あるいは子どもたちも利用できて、おとなもどきども、いっしょになって町ぐるみで公民館活動を盛んにしたいと考えている。

以上のような基本構想に立脚して、本年度の一般会計の予算を組むこととしました。すでに以前から考えられていた問題とはいながらも、福祉センター建設のみ主力を注ぐだけでは他に大きな無理がくる形とならねませんが、これを克服するために今後、財源の見とおしをつけ、その折り多少の補正は必然であると思えます。

前述のとおり、片や町民の負担をおさえようと、片や支出をふや少ししても、よけいに仕事を取り上げるようアンバランスをバランス化するために、せいじつばいの努力を傾けることとして、案を作成しました。

歳出のあらまし

次に歳出の方から概要を申し上げます。

◇議会費

一千八十万一千円で二・七二パーセント、昨年度に比し八十七万六千円の増で人件費および一般経費です。

◇総務費

予算額七千四百八十七万二千円で一八・七五パーセント、昨年に比して七百六十五万円の増です。一般経常費のほかは農業委員の選挙指定統計、町有林の管理経費等を織り込んでいます。

◇民生費

七千七百八十七万二千円で昨年に比し二千九百九十七万五千円の増となり一九・六一パーセントで、本年度いちばん大きな科目になっています。

これは継続事業である福祉センターの建設費の増に伴うものが大部分ですが、本年度事業費六千九百二十万円のうち、起債額が一千九百四十万円で、一般財源四千三百二十万円の増を投するというわけです。本年度町の事業としていちばん大きな事業です。

◇衛生費

その他、母子寮あるいは保育所の補助単価等が改正されたので、これらを織り込んで計画しました。

年に比し三百五十二万七千円の増です。各種予防接種、健康診断、その他、清掃車の購入を計画しています。これは現在、使用している車が最近、故障が多いので新しい車を入れたい。

◇労働費

二千九百六十八万六千円は昨年に比して四百一十一万円の増ですが本年度吸収人員延べ二千人を計画しました。

簡易舗装として駅の西通り、小山田、西別府、萩原線、ほか四線コンクリート舗装は中野、石野、ほか四線になっているが、コンクリート舗装が四百二十メートル、アスファルト舗装が六百メートル程度、その他改良工事が三百メートル、側溝、暗きよ等を計画しています。

◇農林水産業費

二千三百五十一万七千円、昨年に比して千四百六十二万一千円の減となっています。これは農業構造改善事業の減によるものです。稲作改善事業、生活改良協力員の設置、自主農家の育成、農業後継者育成、各種の展示ほの設置それから農業経営の診断事業、地籍調査の継続制度資金による利子の補給、優良種豚育成、生産牛の受

胎率向上の指導、林地肥培事業と造林用苗木の生産奨励など、いろいろ当面の問題については配慮したつもりです。

◇商工費

二十四万一千円で昨年に比し、少し減っています。これは黒川の橋の架設費がいなくなったのでこれを減じたものです。

例年の事業の他に県の指導をうけて、こう変動してまいります。あるいは高速道路ができるためにどういふ影響が商工業におよぼすか、というようなこと等も相当検討して商家のかたがたに、お知らせあるいは指導をするということが必要だと思ひますので経営診断等をしてもらう。あるいは物価対策協議会でも検討してもらおうと考へています。夏祭りの費用も多少増額したつもりで織り込んでおります。

◇土木費

五千四百九十六万八千円は、昨年に比して千四百九十九万三千円の増です。西別府線の継続事業、それから田中橋の補修、吉原線あるいは加治木港線改修工事、護国神社、港線の改良、墓地公園事業の継続、公営住宅一種十二戸、二種十二戸計二十四戸の計画等を考へています。

◇消防費

七百六十二万六千円で昨年に比

し若干増額しています。本年度は辺川分団の積込車の購入を計画しました。その他報酬等の改正に伴うものと一般経費を織り込んだわけです。

◇教育費

六千八百八万二千円は昨年に比して千八百八万七千円の増となっております。一般経費の他に竜門小中用の屋体工事を計画しました。その他新しく体育関係の費用を新規事業として若干計上したわけ

です。この点については、さらに県の指導を受けながら十分効率的に仕事をしたいと考へております。

◇公債費

二千九百二十九万九千円は、本年度償還額を計上しました。

歳入のあらまし

◇町税

町税の九千九百八万三千円は昨年度に比して九百六十二万四千円の増となっております。昭和四十三年度の二月末現在の調定額九千六百四十三万三千円でありまして、これに自然増を見込んで徴収率九七パーセントとして算出しました。

自治省の地方財政計画によりますと来年度市町村税の延びを一八

パーセントと見込んでいますが、本町の場合それ程の延びは考えられないようです。特に台風等の関係もあつたので、これらの過去の実績を考へて見込みました。

なお現在、国会において地方税法の改正が審議中ですが、これが決定を見まして本町の町税条例も改正せねばならないと考へているわけ

です。町民の皆さんが納得していただくような税金というのが一ばん大事だと思つておられます。固定資産税は法の附則を考慮して、また明年度は土地の基準年度に当たるのでこれが評価替えを行ないたいと考へております。家屋については基準年度としての評価は行なわず、新増築家屋については適正な評価をなし、在来家屋については均衡を失すといけないので三パーセントの範囲内で評価を減じたいと考へています。

納得する課税をして、納税組合をさらに強化し職員一同、適正な徴収に親切な、完全な仕事ができるように仕向けてまいりたいと考へています。

納得する課税をして、納税組合をさらに強化し職員一同、適正な徴収に親切な、完全な仕事ができるように仕向けてまいりたいと考へています。

◇自動車取得税交付金

二百万円これは昨年の実績を考へて見積りました。

◇地方交付税

地方交付税ですが一億五千百万円は昨年度に比して三千五百二十

万円増ということですが、昭和四十三年度八月算定の普通交付税の決定額は一億二千八十八万八千円、二月末に交付された特別交付税の六百七十一万四千円を合わせますと一億二千七百六十万二千円となります。

この昨年の実績から一八・三四パーセントの増を見込んだわけですが、この額は特別交付金も見込んでの計算なので相当、当初の見込みとしては大きすぎるのではないかと、という感もするわけですがいろいろ支出の関係とにらみ合わせて、一応この程度計上することにしました。

次は大きめに申し上げますが交通安全対策特別交付金は十万元分担分、負担金は保育所の負担金を見込み使用料、手数料の千四百四十万三千円は条例に基づく住宅使用料、住民課の窓口で取り扱う諸手数料等といったものです。

国庫支出金、県支出金はそれぞれ事業に基づく、現行法に基づく額を計上しました。

財産収入は町営住宅その他のお金です。また寄付金あるいは繰入金、諸収入は、それぞれ実績その他を勘案しました。

町債の三千七百四十万円は、四十四年度事業で起債対象となる事業の全部を対象として、年度の充当率で見積り計上しました。

おわりに

以上、一般会計の歳入歳出予算

の他に、国の広域行政圏の地域振興の問題、鹿児島県長期計画に伴う、これらの指導が行なわれる予定でありますので、本町においてもこれらの関連で行財政の長期計画を樹立する時期に來ていると考へます。いずれ、これらは新年度になってから指導を受けながら計画して行きたいと考へております

——終わり——

春さきに多い

幼児の路上事故

子どもたちにとって、これからの陽気は、いちだんと戸外での遊びが楽しくなる時期です。からだの動きが活発になってきますと、いたるところに交通事故の危険もひそみます。

とくに幼児のいる家庭では、次のことを守り、子どもを交通事故にあわなないようにしつけましょう
○幼児のひとり歩きをさせない
ひとり外へ出ることが危険なことをよく教え、ひとり歩きはいけないことを意識させましょう。
○路上で遊ばせない
路上での遊びは、きわめて危険であり、また交通のじやまにもなることを教え、路上で遊ばないようにしつけましょう。

○行動、居どころを明確に
こどもに自分の行動や居どころを明らかにするしつけをし、親や家庭に心配をかけさせないようにさせましょう。

集団活動を通じ

健康なからだと心を養おう

苧蒲谷にスポーツ少年団を結成

これまで、本町には……
 ○迫スポーツ少年団（東元地区）
 ○東元スポーツ（東元）
 ○新富スポーツ（城東）
 ○西浦スポーツ（西浦）
 ○市来原スポーツ（東浦）
 以上の少年団が結成され、各団とも日本スポーツ少年団員綱領を中心に、積極的に心身を鍛錬してよい社会人になろうという目的のもとに計画的な活動が行なわれております。

最近町内あちこちに、スポーツ少年団の活動成果が理解され、組織づくりの機運がたかまりつつあることは、青少年の健全育成の上からも非常に喜ばしいことです。

町公民館では、子どもたちの健康なからだと心を養い、次代を担うりっぱな人間となるために、一地区一団づくり運動を提唱してありますが、二月ごろから永原第二地区の苧蒲谷部落にスポーツ少年団をつくらうという準備がすすめられ、さる三月十五日午後七時三十分から苧蒲谷部落公民館に団員三十名と親全員が集まり結団式をあげました。

結団式の模様をかんとんに紹介します。

①管火長あいさつ（町公民館長）

- ②団旗授与（スポーツ少年団旗は日本スポーツ少年団本部から）
 - ③学校長あいさつ（永井永原小学校長）
 - ④綱領宣誓（リーダー山下隆尋君）
 - ⑤お祝いのことは（町議向江敬三氏、団指導者向江守氏、部落担任教諭堀江武氏）
 - ⑥レクリエーション（歌と童話を富重主事室内ゲーム指導を明永主事）
 - ⑦今後の団活動のあり方（坂元主事）……今後組織される部落は参考にしてください。
- ▲団のモットー
 ①常に機敏な動作を行なう。
 ②きまつたことは必ず実行する。
 ③すべての活動は学習する心で行なう。
- ▲指導者 向江守・鶴春美
- ▲活動内容

年間継続行事（月例）

- ①墓掃除……小中子ども会と合同で毎週日曜日午前8時30分から9時30分まで。少年団は午前8時に集合しかけ足、体操を行なう。
- ②公民館清掃……第三日曜日午前9時30分から10時まで。
- ③読書活動……町立図書館の移動図書を年間継続して利用。

年間行事

月	行 事 名	場 所	備 考
4	総 会 町本部主催春季スポーツテスト	公民館 中央会場 または地区会場	4月29日
5	子どもの日・ソフトボール大会	永原中学校	5月5日
6	作文コンクール	部落公民館	各自発表・公民館に掲示
7	町スポーツ少年大会参加 〔キャンプ訓練 各団対抗ソフト大会〕	竜門滝附近	7月23日～24日～25日 (2泊3日)
8	野外キャンプ活動	丸岡	8月5日～6日 (1泊2日)
9	町内少年団訪問1日遠足(徒歩) 作文による敬老(慰問)	各少年団 部落内	9月14日 9月15日
10	(1) 中学校運動会参加		
11	町本部主催秋季スポーツテスト	中央会場 または地区会場	11月9日
12	作文コンクール	部落公民館	各自発表・公民館に掲示
1	初日の出拝視～新年会	永原中学校 部落公民館	永原神社参拝 中学校より拝視 部落公民館で新年会
2	サッカー大会		
3	年間反省会・来年度計画立案	部落公民館	

木田壮年会1年の歩みなど 6人が研究成果を発表 町社会教育大会

昭和四十三年度加治木町社会教育大会は、三月二十五日午後一時三十分から加治木合同庁舎大会議室に社会教育関係者約一五〇名が集まり盛大に開かれました。

会は、曾木町長の開会あいさつにつづいて、岩田社会教育委員長の首頭で町民憲章を朗読のち、六人がそれぞれ研究成果を発表し、大衆の注目を集めました。発表者は次のとおり（発表順）

- △みろく部落の子ども会運営みろく部落親子会長 瀬之口光男
- △消費生活研究グループの運営 婦人大学消費生活研究会運営委員 鎌田靖子
- △柑きつグループに参加して 永原農業婦人大学柑きつグループ長 永元ちえ子
- △塩入老人クラブの歩み 塩入老人クラブ会長 蔵満清二
- △西諏訪部落自治会の運営 西諏訪部落自治会長 福永祐春
- △木田壮年会一年の歩み 木田壮年会長 末永豊……以上の発表に引き続き、県企画課笹田昭人氏の「二十年後のごじま」と加治木の講演をきき大会の幕をとじました。